



2009年9月16日(第4号)

“サマー・ダボス”に参加して

9月10日から12日まで、中国・大連で世界経済フォーラム(WEF)のニュー・チャンピオンズ年次総会、通称“サマー・ダボス”が開かれた。今回は世界86カ国から1400名以上の参加者が集い、集中的な議論が行なわれた。

いわゆるダボス会議(毎年1月末にスイスで開催)を中国で開催するために、中国政府は積極的な働きかけを続けてきた。当初は自らが中国版ダボス会議を設けることを目指したが、すでに大きな実績を有する本場ダボス(WEF)にはとても対抗できない。そこで、WEFを中国に取り込む形で実現したが、この“サマー・ダボス”である。一昨年からは始まり、今回は3回目を迎える。

そもそもダボス会議というのは、「世界のリーダーが集まって議論することによって、世界の経済論議の潮流を作る」、「各国の存在感を示す国際的PRの場になる」、という点で大きな戦略的重要性がある。今回の会議では、とりわけ3つの点が注目された。

第1に世界経済の潮流に関して、それなりの統一の見方があったように思われる。グローバル経済の現状に関しては、昨年来の低下トレンドが食い止められ一服感があるものの、一方で今のような財政主導の景気回復は持続可能ではない。私自身は、かねての主張とおり「W字型回復」を述べたが、同じセッションに出たスティーブン・ローチ氏(モルガンスタンレー・チーフエコノミスト)、朱民(ジュ・ミン)氏(中国銀行副総裁)らも、概ね同様の見方であったと思う。もっとも、ローチ氏はかねての主張どおりか

なり悲観的であり、ミン氏は中国経済の好調を受けて総じて楽観的であった。

ちなみに中国経済に関しては、初日に温家宝首相が見事な講演を行い、経済運営に強い自信を示したのが印象的だった。中国の今年前半の実質国内総生産(GDP)成長率は前年同期比で7%を超え、とりわけ第2四半期は7.9%という高い成長だった。温家宝氏は昨年のサマー・ダボスで強気の講演をした後、今年1月のダボスではやや控えめのトーンだったが、今回は再び強い自信をうかがわせるものとなった。

注目された第2の点は、今後の成長戦略に関し「中国・インドとの協力」というキーワードが飛び交ったことである。以前、中国・インド経済が欧米の経済から独立しているという“デ・カップリング”論が議論され、結論として否定的な見方が支配した。現実に中国・インドも、今回の経済危機の影響を受けた。しかしそれでも中国は7%台の成長をしているという事実がある。そうしたなかで、欧米各国がアジアのダイナミズムを自らの成長に取り込もうとする姿勢が鮮明になってきた。これまで日本は、アジア地域に大きな経済基盤を有してきたが、今後はアジアのダイナミズムの取り込みという点で、欧米との新たなグローバル競争に巻き込まれることになる。先行者の利益をどう守り発展させるのか、日本としての戦略的取り組みが求められる。

第3に、日本の存在感については、まだら模様が見られたことだ。今回のサマー・ダボスには約80名

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



2009年9月16日(第4号)

の日本人が参加し、これまで以上の貢献がなされたと思う。その一方で、政権発足直前ということもあり、政治家の参加が極めて限定的だった。政権発足の一進一退の動きに因んで、日本の政治に関するセッションや、大学発のベンチャービジネスを出し合うアイデア・ラボなど日本が注目されたセッションもあったが、日本の政治に関するセッションは意外にも参加者が多くなかった。国内で言われているほど、政権交代への期待は大きくない様子もうかがえた。その意味でも新政権には、明確な成果を示してもらう必要がある。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com